

## エラチオールベゴニアに新たに発生したベゴニア株腐病

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

平成17年8月、宮城県内のベゴニア栽培ほ場のエラチオールベゴニア茎葉に腐敗症状を生じ、最終的には枯死に至る病害が発生した。病斑部分から菌を分離、同定したところ *Fusarium foetens* による新病害であることが明らかとなった。本菌の発生は本邦初確認であり、その特徴や診断方法、対策についてまとめたので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 病名：ベゴニア株腐病（新称）
- 2) 病原：*Fusarium foetens*
- 3) 病徴：本菌による病徴は、葉では灰色かび病、茎では茎腐病に類似する症状を呈する。葉では、はじめ葉脈沿いに黄化が見られ、やがて葉柄基部から葉縁に向かって褐変を生じる。褐変は次第に拡大し、葉枯れ症状を呈するが、湿度の高いときには水浸状の葉腐れ症状も認められ。また、葉柄と茎には褐変腐敗症状が認められ、最終的には枯死に至る（図1～4）。
- 4) 診断のポイント：根にも褐変病徴があることや地際部の導管も褐変することから、類似症状を示す灰色かび病や茎腐病との区別は可能である。さらに多湿時には腐敗部分に多量の分生子塊（スポドロキア）を形成するのも本病の特徴である（図3～5）。
- 5) 当面の対策：現時点で、本病に対する登録薬剤はない。花き類に登録のある殺菌剤のうち、チオファネートメチル・ジエトフェンカルブ水和剤（商品名：ゲッター水和剤）の1,000倍液散布でやや発病が軽減されるが、その効果は十分なものではない（表1）。発病株は直ちにほ場外に持ち出し処分する。

### 3 利活用の留意点

- 1) 現在までのところ、*Fusarium foetens* を病原とした病害は、海外においてもベゴニア以外での発生は確認されていない。
- 2) ベゴニアには非常に多くの種類が存在する。エラチオールベゴニアにおける発生は、品種間差異も大きい。最終的には枯死に至る場合が多い。一方、球根ベゴニア、冬咲きベゴニアにも感染することが明らかとなっているが、その症状はエラチオールベゴニアよりも軽微である。また、現在までのところ、ベゴニアセンパフローレンス、木立ベゴニア、レックスベゴニアにおいては、接種試験においても本菌による症状は観察されていない。
- 3) 本菌は、培土や養液を通して伝染する土壌伝染性であると言われているが、接種試験においては地上部への病原菌の接種でも病徴を再現することが可能で、その症状は葉柄基部からの典型的な黄化、褐変以外にも、葉縁や傷口からの病徴の伸展も観察された（図6）。

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

有害動植物発生予察事業 (平成17~19年度)

##### 2) 参考データ



図1 葉における典型的初期病徴  
(葉脈に沿った黄化症状)



図2 株における典型的病徴  
(葉の黄化・褐変・葉枯症状)



図3 葉における水浸状病斑と分生子塊



図4 地際部の腐敗症状と分生子塊



図5 分生子塊上の大型分生子



図6 地上部への接種による病徴

表1 ベゴニア株腐病に対する薬剤の防除効果 (治療効果)

供試薬剤 (希釈倍率)	処理方法	32日後 <sup>a)</sup>					64日後					備考					
		発病指数 <sup>b)</sup>					発病指数										
		0	1	2	3	4	5	発病度	0	1	2		3	4	5	発病度	防除価
ゲッター水和剤(1,000)	散布	1	1	3	0	0	0	28	1	0	1	0	0	3	68	22.7	軽微な葉斑有
サンヨール(500)	散布	0	3	1	1	0	0	32	0	0	0	0	0	5	100	0	葉害有
オーソサイド水和剤80(600)	散布	1	1	1	2	0	0	36	1	0	0	0	0	4	80	9.1	
無処理	-	0	1	5	0	2	1	48	0	0	2	0	0	8	88		

a)病原菌接種後日数。薬剤処理は、病原菌接種1日後、10日後、22日後、32日後、42日後、53日後の計6回行った。

b)発病指数0は発病なし~5は枯死。

##### 3) 発表論文等

###### a) その他

a) 関根ら(2008) *Fusarium foetens*によるベゴニア株腐病(新称)日植病報74(印刷中)

